

---

# 靈界物語第八十一卷

## 第四篇 猛獸思想

# 第16章 亀神の救ひ [2043]

チンリウ姫 遠島の刑 隠れの島 水没 潮が満ちると

チンリウ姫 述懐歌

独木船 姫を乗せる 島に捨てる

毛武者の  
ナイト

(セリフ) 「この島は夜になるとずんぼりと波の下に沈む。助かりっこない」  
「島に捨てた証拠を監視者の目付、騎士（ナイト）に見せなければなら  
ない。肉のついた一握りの髪、耳をそくか、袖でもねじ切って島の貝と  
共に持ち帰るか、どうするか」

切り取る 姫の左耳 石刀にて のこぎり引き

(セリフ) 「ぐずぐずしていると俺の舟までどうなるか分からない」

帰る 艀をあやつり

運を天にまかせて 死期を待つより 手段（てだて）なし

述懐歌 嘆きの歌 歎きの涙つきはてて 今は知死期を待つのみぞ

チンリウ姫

危機一髪 姫の命  
下半身が水に浸かる

もはやこれまで 覚悟

いつともなく現れる

大亀 姫を救う 背に乗せる

南へ南へと泳ぐ

アララギの深き奸計（たくみ）は憎けれど 吾は忘れむ今日を限りに

たのみなき人の心を悟りけり 乳母アララギのなせし仕業に

センリウは吾身に全くなりすまし 妃となりてえらぎ居らむ

チンリウ姫

外国（とつくに）の仇（あだ）の王の妻となる センリウ姫は憐れなりけり

吾靈魂身体共に汚さるる 真際を救いし彼なりにけり （彼＝センリウ）

かく思へばアララギとても憎まれじ 吾操をば守りたる彼

ありがたし神の恵の深くして 吾身体は汚さずありけり

南へ南へ進む イドムの国の方向

大亀

送り返る 真砂ヶ浜 イドムの国

数百ノット（時速200～1000KM）の距離 一晚  
一時間の海里 一海里は約1.852キロ  
⚠ ノットは時速の単位  
100ノットで時速185キロ

チンリウ姫

御礼 汝こそは尊き神の化身かな 玉の生命を救いたまひし  
いつの世か汝が功を忘れまじ 海原守る神とあがめて

亀 二三回顔きながら 水中に消える

チンリウ姫

月光山 麓の森林 知らない 父母が隠棲

森に入る 食べ物を探す

第17章 再生再会 [2044](1)



## 第17章 再生再会 [2044](2)

朝月、チンリウ姫 **森林を住家として** 時を待つ

時期 ⚠ エールス王が王妃に殺されるより以前の話か？

## 第18章 蝶蠨の精 [2045](1)

遺囑 木田山城内の森林

偽チンリウ姫

述懐歌

回天の望みを遂げて吾は今 木田山城の花と匂うも  
心地よやチンリウ姫は魔の島に 漂いながら亡び失せけむ  
わが威勢日に日に高まりゆく見れば **智慧の力の現われなるべし**  
赤に白に匂える花も世の人は あおいの花と称え来にけり  
チンリウ姫の膺にはあれど吾もまた あおいに匂う花にあらずや  
雪という字も黒々と墨で書く 例(ためし) ある世ぞ何を恐れむ  
よき事に曲事いつき曲事に よき事いつくは吾の身にしる

容姿端麗美男子

歌 「自分はエームス王のいとこ。貴方の気高い美しさにひかれています」

⚠ イモリの精 菖蒲池

見る 美男子 エームス王に幾倍とも知れぬ

偽チンリウ姫

恋の悪魔にとられる

右手を握る

偽チンリウ姫 「ままならば君と千歳をちぎりたい」

対話歌

美男

「自分はエームス王のいとこで、セームスという軽き者です」  
「御心になつたら 今日からは人目をしので会いましょう」

偽チンリウ姫

**懐かしの君に会いてゆわが胸は** 高鳴り止まず面ほてりけり  
⚠ 懐かしい 前から知っていたということか  
明日さればこの森林に君と吾と 千代の契りを語らわむかも

セームス

ありがたき情の言葉聞くにつけ 心の駒の雄猛びやまずも

セームス

煙と消える

偽チンリウ

述懐歌 エームスの王にいまし麗しき セームスこそわが生命かも

帰る 殿内

アララギ 「明日よりは供を連れて出よ。一人歩きは危険だ」

対話歌

偽チンリウ姫

「花に誘われ一人で遊びました。城は水で囲まれているので安全です」

エームス王

「私の心はひどくさやいでいた。明日よりは、一人で出るな」

偽チンリウ姫

吾王の幸を祈ると裏庭に 佇み神言(かみごと) もうし居たりき

偽チンリウ姫の提言

翌日

舟遊び

城内

菖蒲池

魔神住む 昔からの言い伝え

丸木舟

偽チンリウ姫、エームス王、アララギ、侍女2名

第18章 蝶鰻の精 [2045](2)



# 第19章 悪魔の滅亡 [2046](1)

## エールス王 イドム城奪取

### 帰国を命じられる

右守ナーリス 数百のナイトを従えながら国へ戻る 意気揚々

⚠️ 内容齟齬 6章では左遷されたことになっている 四五人の従者

大栄山を乗り越えて 人魚の里に攻め寄せつ 難なくここを占領し

勢いあまつてイドム城 何の苦もなく占領し

## ナーリス

### 述懐歌

エールス王は欣然と 御代太平を謳いまし

汝右守のナーリスよ イドムの国は治まりぬ

汝はこれより数百の ナイトを従え堂々と

大栄山を乗り越えて サールの国にかえれよと

⚠️ 人魚の里を占領 先の章では出てこない

### 夜を日に継いで帰る

## ナーリス

木田山城到着 旗鼓堂々 威風凛々 物々しさの限り

軍状報告 エームス太子

⚠️ エームス太子 賈物 いもりの精

エームス 「お前はイドムに行ったナーリス司ではないか」

ナーリス 「エールス王はイドム国を滅ぼし、イドム城は平安無事となりました」

「エールス王の指示で、太子はサールに留まれとのことでした」

## 対話歌

エームス王 「親王の留守に止むおえず新妻を娶った。よしなに計らえ」

ナーリス 祝い  
「父王のよさし言葉に従い、エームス太子の左守として仕えます」

⚠️ ここで左守となる

## (続)

チンリウ姫 驚くが 始めて右守ナーリスを見た

平然と そ知らぬぶり

「自分はチンリウである」 ⚠️ 賈物 センリウ女

ナーリス 今日よりは赤き心を捧げつつ 若王と妃に仕えまつらむ

チンリウ姫 「太子の政治を助けよ。あちこちに波風が立つと聞いている」

## (続)

アララギ 横柄な面構え

「若王の御身を守るのは自分です。若王の御言葉で今日よりはナーリスに相談することになります」

ナーリス 「女であるチンリウ姫の乳母と政治を語らうことはできない」

「退いておれ」

チンリウ姫 「ナーリスもアララギも共に国につくせ」

アララギは女なれども男(お)に勝り さかき雄々しき益良女なるぞや

## (続)

ナーリス 妃の君の御言葉うべよと思えども 女ことさき立つは悪しけむ

アララギ 憤然 「自分の言葉に従わなければ、何事も治まらない」

エームス王 アララギの雄々しきさかき魂は 左守といえどもおよばざるべし

第19章 悪魔の滅亡 [2046](2)

ナーリス **憤然とする** 左守吾は鄙に退きまつるべし いやしきアララギ用いたまわば  
**退出** 何処となく消えた

**暴動勃発** **数多の暴徒** 手に手に得物をたずさえ  
 本城目がけて 攻め寄せる 阿修羅王の狂ったごとく

**寡を以て衆に敵し難し**

**エームス王** **飛び込む** 菖蒲池 偽のチンリウ姫 小脇を抱える  
**二人の姿は水泡となって消え失せる**

**夕月** **王の居間に進む** **暴徒の中心人物**

**アララギ** 「夕月は城内に群集をおびき寄せクーデータを謀む。不届千万」

**夕月** **セリフ** アララギの罪 チンリウ姫とセンリウ女の入替え  
 暴政 国津神 塗炭の苦しみ  
 自害を迫る アララギ 天命逃れ得ぬ

**アララギ** 逃げ出す あわてふためき

**射殺** アララギ 弓矢

**城内** 統制機関 無し

**混乱** **ナーリス** 行方 分ならず

**木田山城** さながら悪魔の跳梁にまかせる

第20章 悔悟の花 [2047](1)

**十字路** 数百の騎士（ナイト）を従える

**ナーリス** **演説歌**  
 エームス王は悪神に 生命奪われ 怪しがる鷹のエームス君臨し  
 悪逆無道のアララギが 娘が妃となりすまし 暴威を振るい居たりしが  
 愛国志士の団体に 攻め立てられし 悪魔等はたちまち煙と消えにけり  
 吾はこれより城内に 騎士を率いて立帰り  
 乱れ果てたる秩序をば 全く元を立て直し 善政を布かむ覚悟なり  
 エールス王は遙々と イドムの国を言に向けて  
 時めきたまう功績（いさおし）を 汝等国人恐れずや  
 エールス王が軍隊を 数多引連れこの国に  
 再び帰りますならば 汝が生活は弥益も 安く楽しくありぬべし

⚠ **エールス** ここでは死んだことは知らない

**夕月** **演説歌**  
 「木田山城の悪魔は亡びた」  
 サールの国は生まれたり 亡び行くなる国原は  
 汝等群衆の真心に 蘇りたる嬉しさよ  
 「左守ナーリスに万事を委ねよう」

**夕月** 隊長 愛国団体

**夕月、ナーリス** **邂逅** 十字街頭 大衆を率いたまま  
**お互い祝う** 暴動の無事治まったこと

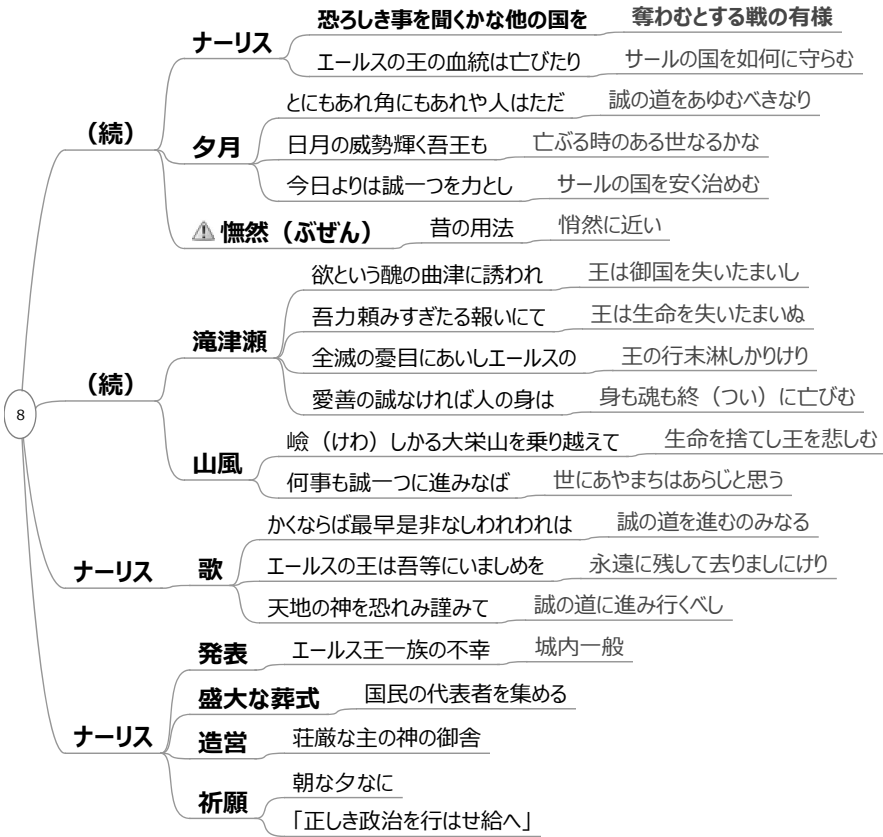
6

## 第20章 悔悟の花 [2047](2)

- 常暗の雲は晴れにつ久方の 月日は清く輝き渡れり  
 汝こそは左守の神よ乱れたる この世の縛れを解かせたまえり  
 曲神は残らず亡び失せにけり いざこれよりは君に頼らむ
- 対話歌**
- 夕月**
- ナーリス** 遥々とイドムの国より帰り来し 間もあらなくこの騒ぎ見し  
 夕月の君の真心（まごころ）カとし 吾は仕えむ木田山城に
- 夕月、ナーリス 城内深く侵入 一切万事の後片附**
- 国乱鎮定の祝賀会 ナーリス、夕月、滝津瀬、山風 青山、紫、玉山 数十人の重臣**
- 祝歌**
- 青山** 天地の神の御稜威と左守司 夕月司に治まりしはや  
 長き日を鄙（ひな）に潜みて国の状態 吾は細々調査べ来にけり ⚠公安スパイ
- 紫** 紫の雲は御空に靡（なび）けども 中空の雲黒々覆いし ⚠紫は特別な色  
 エールスの王の戦に居出しより 一入（ひとしお）サールの国は乱れし
- 玉山** 捕虜として捕え帰りし魔の女に 木田山城は傾きしはや
- 山風** エームスの吾若王の御心を 蕩（とろ）かせまつりし魔の女かな  
 これよりは蝶蜷（いもり）の精を言向けて 国の災清く払わせよ
- 滝津瀬** かくのごとく安く治まりし有様を イドムの王に知らせたきかな  
 吾王はイドムの城を亡ぼして 功を永久に立てさせたまえり
- 夕月** 人の和を得たる軍は何処までも 亡ぶ事なく勝ち終せたり  
 城内を騒がせまつりし吾罪を 身に引き受けて鄙（ひな）に下らむ
- ナーリス** エールスの王の言葉に従いて 急ぎ帰れば国乱れ居り  
 今しばし帰国後る事あらば サールの国は自滅し居らむ
- 副将**
- 帰国** 逃げ帰る  
 数千の騎士（ナイト）を従える
- チンリン** **拳手の礼** ナーリス
- 伝える** イドム国での敗戦  
 「エールス王が死に、サックス姫、チクター、エーマンも滅んだ。  
 アヅミ王が盛りかえした」
- 一同** **顔色を変え** 茫然 ⚠ここで始めてエールス王の死を知る
- 述懐歌**
- ナーリス** 思いきや武勇の聞え高かりし 吾等の王は帰幽れたまうか  
 サックスの妃の君も身うせしと 聞くにつけても悲しさに堪えず
- チンリン** 何故か訳は知らねど吾王は 神の譴責（きため）にあいたまいけむ  
 人々の語を聞けば主の神の 皆いましめと定めいるらし  
 とに角に人の国をば奪いたる 報いなりせば詮術（せんすべ）なけん



第20章 悔悟の花 [2047](3)



---

# MEMO